

新しい考え方は、カタカナで入ってくる場合があります。その言葉の響きは、人々に期待を与えてくれますが、理解が難しいという一面もあります。ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンもその一つかもしれません。きょう23日から29日は、男女共同参画週間です。性別をはじめ年齢、国籍など、さまざまな違いを認め合うダイバーシティ（多様性）とは、具体的にどうすることであり、なぜ必要なのでしょう。米国在住経験のある東出悦子アイベック社長と、生物多様性に詳しい太田道人県自然保護協会理事長が語り合いました。

「ダイバーシティ（多様性）」という言葉を聞いたり、意識したりするようになったのはいつごろですか？

東出…35年前にアメリカに留学し、卒業後そのまま現地で就職しました。その時ですね。多様な人種や宗教の人たちが共に暮らしているのを見て、これがダイバーシティというものかと思いました。**太田**…米国に留学してそのまま就職というのは、すごい行動力ですね。

東出…実は留学前、東京で就職しようと考えたことがありました。当時は今よりずっと保守的な社会で、採用条件に「女性は実家から通うこと」という制約もありました。自分の道を狭められているように感じて、もっと広い世界を見たいと海外に行くことを決めました。

太田…私が「生物多様性」という言葉に出合ったのも35年ほど前。その後、国が生物多様性国家戦略を立て、2000年ごろから県と一緒に、生物多様性の普及に取り組むようになりました。

「生物の世界で、多様性とはどんな意味があるのでしょうか。」

太田…種類が多いだけではなく、それぞれがつながりあっている状態です。例えば、野生の桜が何年も生きていくには、花が咲いたら虫に花粉を運んでもらい、やがて実がなるとその実を食べて運んでもらう鳥も必要です。地中では、栄養を集めてくれる菌類が根っこにまとわりついてくれないと、十分に栄養は取れませんし、その土の栄養も、落ち葉や野生動物の死骸を分解する土壌動物や細菌類がいないとできません。このようにたくさんの生物がいないと、1本の桜でさえ生きていきません。その複雑に絡み合ったネットワークのようなものが生物多様性なのだと思います。このネットワークが細かければ細かいほど、サイズが大きければ大きいほど壊れにくく、生物の世界は安定します。そして私自身を振り返っても、衣食住、燃料、文化や風土も生物が土台になっていて、私も生物多様性のおかげで生きています。

ダイバーシティとは 自分らしくていいと思える社会。

東出…素晴らしいお話ですね。社会における多様性も同じです。企業もトップダウンで物事を進めるより、働く人たちが意見を出し合い、それぞれの良さを最大限に発揮できたほうが、より良い仕事を安定的に行えます。ただ日本では、意見を言うにくい雰囲気があることに、最初はすごく驚きました。

「社内で意見を出しやすい環境は、どのようにつくられたのでしょうか。」

東出…ファシリテーションという会議←

成果が出ると、やりがいを感じられて楽しいのです。ダイバーシティは、企業の競争力を高めるためにも重要です。

太田…そうした環境で働くと、自分が信頼されていることを実感でき、頑張ろうという気持ちが湧いてきますよね。

「最後に、お二人にとって多様性のある社会とは？」

太田…個人の生き方や考え方が尊重される社会、そして平和で持続可能な社会です。多様性を認め合うことは、平和に←

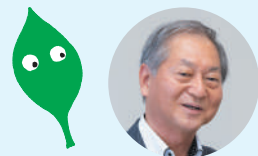
手法を取り入れました。会議を促進するファシリテーターが、みんなの意見を引き出し、集約し、それらの意見を客観的にとらえて合意形成するという手法です。社員と一緒にファシリテーションの勉強もしました。4年ほどかかりましたが、みんなが自由に意見を出してくれるようになりました。

また、対話を通じて困っていることを共有してもらい、会社全体で助け合いながら仕事を進める仕組みづくりに力を入れました。すると仕事の質も生産性も向上しました。何よりチームで助け合って

多様な生物がいないと 1本の桜も、私も生きていけない。



←インタビューのロングバージョンはこちら



太田 道人 おおた・みちひと

県自然保護協会理事長

1959年富山市生まれ。富山市科学博物館に82年から2026年まで学芸員として勤務。17～20年は副館長を務めた。県内の植物分布を調べ、県版レッドデータブックの作成や立山黒部アルペンルート沿線の植生復元と外来植物対策にも携わってきた。23年から現職。



東出 悦子 ひがしで・えつこ

アイベック社長

1969年富山市生まれ。米国の大学卒業後、現地の会計事務所に就職。2000年に帰国し、東京の金融機関に勤務。10年に父が起業した構造物検査・診断のアイベック（富山市中田）に入社し、15年に社長就任。県成長戦略会議ウェルビーイング戦略プロジェクトチーム委員。

